

2023 年度モンゴル活動報告

期 間：2023 年 8 月 17 日～8 月 20 日

場 所：ウランバートル

参加者：兵藤透（ふれあいクリニック泉）、内田潤次（大阪公立大学）、長沼俊秀（大阪公立大学病院）、中西理沙（大阪公立大病院）、北島幸枝（東京医療保健大学）、小久保謙一（国際委員会）、矢部広樹（国際委員会）、黒田沙織（国際委員会）、山本裕子（国際委員会）、吉田友貴（国際委員会）、徳田勝哉（国際委員会）、安部貴之（国際委員会）、深澤加奈子（国際委員会）、松原弘和（国際委員会）、人見友啓（国際委員会）、中島高博（国際委員会）

今回、5 回目となる 5th joint seminar of Mongolia and Japan on dialysis をモンゴル国立第一病院およびモンゴル透析学会と JSTB の共同開催にて 2 日間に渡り実施した。初日のハンズオンセミナーでは、①Engineering Group、②Nursing of HD and PD patients Group、③Physiotherapy for dialysis patients Group、④Nutritional management for dialysis patients Group、⑤Vascular access surgery Group の 5 グループに分かれセミナーを行った。①Engineering Group：講義形式で透析装置の基本構造について基盤構造を元に説明を実施した。その後実際に透析装置で実際に起こったエラーコードを出現させ、各々のエラーコードに対する対応方法について説明を実施した。②Nursing of HD and PD patients Group：アクセスに対する理学所見・穿刺スキル・フットケア、爪切りなどの説明を行い、患者さんに対して実際にフットケアを実施し、今後の臨床現場で活用できる内容となった。③Physiotherapy for dialysis patients Group：2 つのサブグループに分かれ簡便な筋肉量の評価、握力計での握力測定、ハンドヘルドダイナモメーターを用いた膝伸展筋力の評価、歩行速度の測定、膝痛や腰痛のアセスメントと治療について患者さんにも協力いただき実践した。④Nutritional management for dialysis patients Group：基本的な栄養療法の説明、4 症例に対してグループディスカッション⑤Vascular access surgery Group：VA 再建（Brachiocephalic AVF での作製）とエコーガイド下における PTA を行った。モンゴルにおける VAIVT 治療は PTA が選択されることは限られており閉塞後に再作成を行う症例が多く、そのため大半の患者は、肘部からの吻合（Brachiocephalic AVF）であった。PTA を行った際においては、シースが EVT 用であったなど限られたデバイスで手術を行わないといけないなど難しい点もあった。

日目は講演形式で日本から 5 名の国際委員を含む 9 名が英語で現地の医師、看護師、テクニシャンに講演を行った。その際、現地の若手医師にモンゴル語に逐次通訳を行っていただいた。内容は、大阪公立大学の内田潤次先生より『Kidney transplantation as renal replacement therapy』というタイトルで腎移植において、血液透析と比較して QOL が高く患者にとって最適な腎代替療法であるとの講演や、同大学の長沼俊秀先生から『Vascular Access Management in Japan Today』というタイトルで本邦におけるバスキュラーアクセス管理（FV・RI の機能評価に関して）と『Surgical Treatment of Complications in Peritoneal Dialysis』というタイトルで腹膜透析における合併症の外科的治療に関する講演があった。また、ふれあいクリニック泉の兵藤透先生より、『Dialysis Patients and COVID-19: The Future Perspective of Protection』というタイトルで COVID-19 における透析患者のワクチン接種の必要性に関して講演があった。東京医療保健大学の北島幸枝先生からは、『Nutritional management for dialysis patients』というタイトルで透析患者の栄養管理に関して、カリウム・リン・タンパク質など、どのような食材に多く少ないか、調理法など具体的な提示をして講演を行った。国際委員会からは、小久保委員長より、『Quality control of hemodialysis therapy: dialysis membrane』というタイトルで、透析膜の溶質除去特性に関する講演と、『Measurements of dialysis water and dialysate quality in Mongolia』というタイトルで当委員会の活動として行っていたモンゴル国内の水質調査について講演を行った。黒田委員と徳田委員は『Peritoneal equilibration test (PET) and perspective of Japanese dialysis nurse』というタイトルで、PD や腹膜平衡機能（PET）検査に関して日本からサンプルなどを持参して

デモンストレーションを行いながら講演を行った。矢部委員は『Physiotherapy for dialysis patients』というタイトルで透析患者の運動療法に関する講演を行った。

モンゴル全土から医師・看護師・エンジニアおよびテクニシャン 120 名を超える参加があり、有意義なディスカッションを行うことができ、例年通り大盛況のもと終了した。

● Engineering Group



● Hands-on Nursing of HD and PD patients Group



● Physiotherapy for dialysis patients Group



- **Nutritional management for dialysis patients Group**



- **Vascular access surgery Group**



- **Joint Seminar**

